

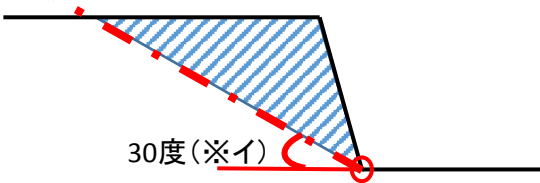
法19条 がけの取り扱い

斜面の勾配が30度を超えるがけについて原則、以下のように対応する。
(安全性の確認(※ア)ができない擁壁・土留め等を含む)

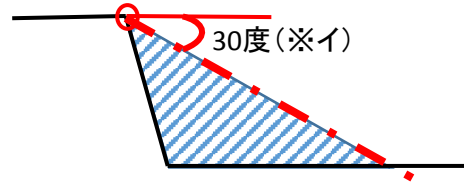
がけに面する敷地において①、②のような斜線の範囲内に建築物を建築する場合は以下の対策が求められる。

※ア:安全性の確認とは、都市計画法、宅地造成等規制法、建築基準法に基づき築造され、検査済証が取得されている擁壁で、現在も経年劣化のない良好な状態である等。
※イ:がけの安息角は、原則30度とする。(安息角…土が安定する角度、土質により異なる。)

①がけ上に建築する場合



②がけ下に建築する場合

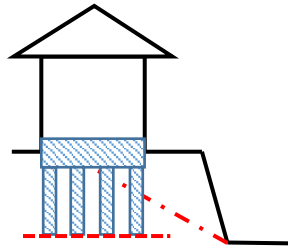
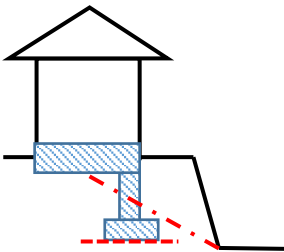


斜線部:安全性が確認できない部分

①がけ上に建築する場合の対策例

(1)深基礎

(2)杭基礎(杭と基礎が一体)



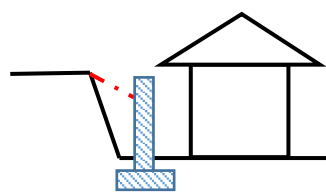
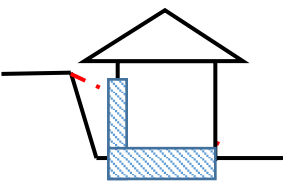
深基礎または杭基礎の底盤面(杭先端)のいずれかが全面安息角以深に達していること。

底盤面:-----

②がけ下に建築する場合の対策例

(1)高基礎、主要構造部(斜線部)がRC造

(2)防護壁



高基礎、主要構造部または防護壁のいずれかの立ち上がり面の最上端が安息角線以上の高さには達していること。

また当該の外壁等には開口部を設けてはならない。

参考

都市計画法第29条、宅地造成等規制法、東京都建築安全条例第6条